

各支部の副支部長に聞く 物4

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆〇四七二(22)七二〇七

84年を切り抜いて

厳しい時こそ団結しよう

一新小岩支部 関 豊

3年前、マスコミを通して「ヤミ・カラ」キャンペーンを行い、国鉄労働者「国賊」論を布石として、翌年、第二臨調は国鉄「分割・民営化」「職場規律の厳正」攻撃を打ち出し、国鉄労働運動解体攻撃が本格化したわけですが、今年は特にその攻撃の本質がはつきりした年であつたろうと思います。

6月21日の仁杉国鉄総裁の発言、8月10日、監理委員会の第二次緊急提言などから、「分割・民営化」に向け現体制のうちに行けるものはすべてやってしまおうという意図であり、まさに軍事大国化・改憲、「戦後政治の総決算」をかけた国鉄労働

臨調・行革粉砕 三里塚ジェット闘争勝利!
'84 動労千葉
'60・3粉砕! 11.29総決起集会
蘇我機関支区 廃止絶対反対!
具体案策定を表明
臨調国鉄攻撃 本格段階に突入
政府当局は「分割民営化」にふかふか切った。10万人の首を切った。'59・2、(2月)「動労動」(4月)「三本柱」(10月)「60・3」の総決起集会を先陣早にかけた。

運動解体攻撃であることが明確になったといえます。一方、今こそ労働者が一丸となつて闘わねばならないときに動労「本部」革マルは敵のすさまじい攻撃に恐れおののき、丸裸になつて延命策を講じています。「雨の日には山に登るな」、「骨身を削つて働こう」、「国鉄を国鉄として残すために自民党議員にお願いする」と称し、「59・2ダイ改」「昇給協定改悪」「動乗勤改悪」「余剰人員の解消策」などなど、率先して裏切り妥結を行つてきました。また、かつてマル生闘争時に鉄労が当局に率先協力しながら組織拡大をはかったように、国労、動労千葉

徹底した職場抵抗闘争を展開しよう!

幕張支部 秋葉忠夫

私が支部の副支部長になつてちょうど一年が経過しました。この一年間は、一月十五日労働者福祉センターに於ける本部旗開きを機にさまざまな問題や出来事がありました。

わち退職を前提とした休職・出向・一時帰休の首切り提案をしてきました。それに追いつくをかけるように、動乗勤の効率化を図ると称して要員生みだしを狙った、「60・3ダイ改」が一方的に打ち出されたのです。

まず当幕張支部に於いて三月一日に退職者送別会が駅ビルにて盛大に開催され、我々の仲間である七名の組合員が第二の人生に向かって出発していったのです。

私も副支部長となつてまだ一年生です。まだまだ未熟者ですが各役員や組合員等との連携を密にして、又対話を一回でも多く開催していく中で、この超反動的な「三本柱」、労働者を人間として見ないこの理不尽な攻撃、運転保安を軽視した「60・3ダイ改」攻撃、検修基地における台検の廃止、交検・仕業の回帰キロ延長等々の攻撃について、かつて我々が、ワッペン闘争および入浴闘争等でつちかった組合員の団結力を發揮して闘いぬく決意です。

「闘う動労千葉健在なり」の団結の底力を発揮する3・25の三里塚現地闘争である。当支部に於いても全役員が我が身のものと感じ徹底した対話オルグ等々を積極的に行い、五割動員を大幅に上回る団結力を示したことは言うまでもありません。やればできるんだ。全組合員が本当によく頑張ってくれたと思います。

三里塚闘争と結合した職場生産点での闘いの重要性を認識し、八五年に向けて闘いぬこうではありませんか。

しかしながら、自民党、当局、動労「本部」三位一体となつた攻撃は厳しくやっぎばやにかけられ、余剰人員調整策と称する「三本柱」すな